

平成 30 年度 番組審議委員会 議事録

(株)飯田ケーブルテレビ

■開催日時 平成 31 年 2 月 12 日 17:00～18:30

■開催場所 飯田ケーブルテレビ本社

■出席者 審議委員 伊坪 薫 (元行政職員)  
岩井美季 (施設職員)  
松尾 勲 (団体役員)  
木下卓実 (会社役員)  
勝野芳美 (専業主婦)  
(欠席 2 名)  
事務局 原 勉 (代表取締役社長)  
吉川治司 (常務取締役)  
平沢 徹 (編成部長)

■内容

第 1 部 審議委員会

1、開会

2、挨拶 (原)

昨年開局 30 年を迎え、光化や 4K 放送等新しい取り組みをする弊社に対し、  
新任された委員の皆さまから様々のご意見をいただく中で、放送に反映させて  
いきたい。

3、議事

- (1) 審議委員改選に伴い自己紹介
- (2) 放送番組審議規定紹介、役割確認
- (3) 会長、副会長の選任  
会長に伊坪委員、副会長に岩井委員を選任
- (4) 業務現状報告 (吉川)
- (5) 30 年度放送実績、31 年度放送計画報告 (平沢)
- (6) 質疑応答 (進行は伊坪会長)

(主な質疑)

- ・テレビ広報のコンテスト最優秀賞は大変うれしかった。出演者の捉え方、撮影手法など大変すばらしかった。感動した。
- ・「竜東・遠山寄ってみまい！」他大変面白く見ている。
- ・正月明け、ニュースの途中で放送が止まってしまい、番組が正常に流れない期間があったが？
  - 放送機器の不具合によりご迷惑をかけた。
- ・大鹿村がエリアになり、「大鹿歌舞伎」の中継などが多くの地域で視られるようになったのは画期的。
  - リニアが通る村として、スマートビレッジを目指すことは面白い。
- ・孫の様子を見られるのは、ケーブルテレビだけ。
- ・戦争体験番組は貴重な番組。
- ・他の地区の（他のケーブル局）の番組を見られるのもありがたい。
- ・雪が降った時は、飯田ケーブルのホームページからライブカメラを確認している。
- ・飯田ケーブルテレビのスタッフが取材するのもいいが、地域からの情報吸い上げをもっとするといいいのでは？
  - 「結チャンネル」での地区情報に偏りがある（発信する地域と発信していない地域）。行政がもっと利用すべき。
  - ケーブルテレビとして啓発する必要があるそう。
- ・「創論」はいい番組だが、途中から見た視聴者にも分かり易いように、テーマや内容を分らせるテロップ等の工夫が欲しい。
- ・ドローンによる空撮映像がとても面白い。
- ・海外でも活躍されるような人物が地域にいる。是非取り上げてほしい。
- ・飯田ケーブルテレビの放送体制は？何人のスタッフ？
  - 7人、特に担当制はとってない。
  - テクノロジーの発展でカメラなどの機材も大きく変わり、撮影者も撮影手法も変化している。どう活かしていくかが大事。
  - ローカル民放さんに比べて、番組への予算措置やスタッフ数、質の違いはあるが制作本数は負けていない。
  - ケーブル局の規模も千差万別。それぞれの特徴を活かした番組作りを目指す。

以上